

初めて見た雪に 感動しました

「母親が日本人で、横浜市に祖父母が住んでいるため、これまで数回来日していますが、北海道は初めて。自然が豊かな所ですね」と話すアンドリュースさん。

「初めて雪を見たときは感動しました。雪が降ると毎日喜んでいました」と北海道の自然をすっかり気に入っています。

好きな日本食は、刺身やおでん、カレーライス。母親がよく作ってくれたので、日本料理にはなじみが深いようです。

「アメリカでは、ごみを一つのごみ箱に入れて捨て、分別は施設で行いますが、日本では、あらかじめ、燃やせるごみと燃やせないごみに分別して捨てるので、種類を覚えるのが大変です」と日本の生活習慣に慣れるため、努力しています。

また、日本語の学習にも力を入れていて、「大学で日本語を2年間習いましたが、母親からも教わることでできたのはラッキーでした」と笑顔で話します。

ソフトテニスを通して 生徒たちと触れ合いたい

市内の各中学校などで英語を教えているアンドリュースさん。



▲アンドリュースさんの授業の様子
(登別中学校)

「生徒はみんな頑張っていると思います。自分も授業に慣れてきました」と着任後のこれまでを振り返ります。

「英語が上達するポイントは、緊張せず、音に慣れて単語を覚えること。そして、文法をたくさん習えば、英語がきれいになります。私も日本語を毎日勉強しています。が、間違いがたくさんあります。間違えることで覚えることができますし、英語も同じだと思います」と生徒たちに学習方法をアドバイスします。

アンドリュースさんの趣味はテニス。アメリカには、硬式テニスしなく、着任後、中学校の部活動でソフトテニスを初めて体験しました。「ソフトテニスは体に優しいスポーツ。生徒とまたプレーを楽しみたいです」と生徒たちとの触れ合いを大切にしています。



KIRARI

アンドリュー・ジョンソンさん

市は、平成2年から英語指導助手として外国人青年を招き、生徒たちに生きた英語を学んでもらっています。離任後は『登別市ふるさと大使』に委嘱され、登別のPRや国際交流に貢献しています。

昨年7月に着任した8代目の英語指導助手アンドリュー・ジョンソンさんに話を聞きました。

英語の上達は、音に 慣れて単語を覚える ことが大切



Andrew Johnson

1982年（昭和57年）アメリカ・カリフォルニア州バンナイズ出身。23歳。カリフォルニア大学デビス校卒業。在学中は英文学を専攻。将来は教師を目指す。趣味はテニス、登別の温泉めぐりなど。